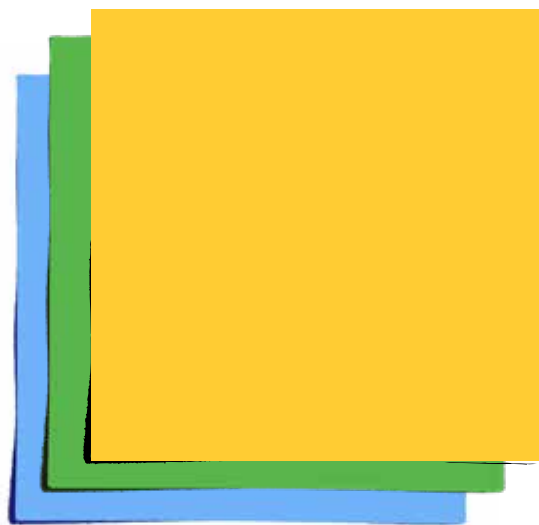


沈黙から言葉へ

子どもの権利と回復を支えるデザインの役割

From Silence to Voice -- Design's Role in Children's Rights and Recovery

子ども時代の感情の抑圧が社会に長期的な影響を及ぼすと指摘したアリス・ミラー（1923–2010）は、同時に子どもを権利の主体として尊重し、回復の条件を示した。今回はその視座にも依拠しつつ、子どもを権利主体とする回復の公共圏をいかにデザインし得るのか、思想と制度、現場の実践を往復しつつ、ともに深めてみたい。



2025 年12月 2 日 [火] 18:00-20:00

【会場】 九大大橋キャンパス印刷実験棟 2 階およびオンライン開催



田北雅裕 TAKITA Masahiro

九州大学大学院芸術工学研究院准教授。1975年熊本市生まれ。2000年、学生の傍らデザイン活動triviaを開始。以降、まちづくりとデザインを切り口に様々なプロジェクトに携わる。現在は、コミュニケーションデザイン/サービスデザインの観点から、主に子ども家庭福祉の課題を乗り越えていくための実践・研究に取り組んでいる。一般社団法人「福祉とデザイン」ディレクター、糸島市こどもの権利救済委員会 会長等も務める。

- 【お申込み】 ご関心のある方はどなたでも自由に参加できます。
参加ご希望の方は、左記申込みフォームからお申込み下さい。
＊締切：12月1日(月) まで
- 【お問合せ】 古賀徹（九州大学芸術工学研究院）
designfundamentalsseminar@gmail.com
- 【主催】 九州大学大学院芸術工学研究院 デザイン基礎学研究センター
<https://www.cdf.design.kyushu-u.ac.jp/>
- 【共催】 九州大学芸術工学部芸術工学科未来構想デザインコース



申込フォーム